特30
993

序

神を離れて宇宙なく宇宙を離れて萬物なし神は宇宙の主宰にして又萬物の根源なり故に是れを造化の神と稱す生々化々として永久易はることなく陰陽變通更に窮まりなし嗚呼幽玄靈妙豈思慮の及ぶ所ならんや大德鴻恩豈筆紙の盡す所ならんや然るに余が不能なを猶自ら揺らす他の笑ひをも顧みず敢て本書を編する所以のものは他なし此絶對無限の神恩靈德の万一を叙し自ら感銘拜謝すると共に之を同感の士に頒ちて以て益々崇敬欽仰の誠意確固不動の信念を相共に振起し以て敬神愛國の旨を體し進みて惟神の大道

内交
43.12.6

を宣揚し國体を恢張し神德　皇恩に報ひ奉らんと欲する一片の衷情のみ讀者幸に其意を諒こし之を階梯として益々進みて神典古史を渉獵し常に孜々として修養し汲々として研磨し神秘を窺ひ蘊奥を極め以て我が惟神の大敎を了得し日夕天地の化育を贊し刻々養成感化の責に任し以て神德靈驗を實現し世人をして千古赫々たり萬代昭々たる光明彩華を仰がしめん事を庶幾ふ

明治四十三年六月

水屋敷に於て

編者　識

造化三神考

石田守義編述

古天地未だ生ざりし時高天原に神有き御名は天之御中主神次に高皇産靈神次に神皇産靈神此三柱の神は竝獨神成り坐して御身を隱したまひき（古史傳）

古天地未だ生ざりし時とはむかし大虛空も大地もまだ出來て居らざりし時と云ふこと

高天原に神有きこは天つ虛空の神界高天原に神ましく〳〵たと云ふこと高天原の原は廣く平かなる處を云へるにて海原野原などの原の如し」

神とはいふ奇靈しく妙なる物を云ふ故に造化の業にあづかり給ふ

神たちは申も更なり凡て世に奇しく靈しき功德あるものを神と云ふ神の意義を説きたるものの數ある中にて二三を左に示す

（照覽）かむがみ。神慮は萬物を照すが如しといへるより出づ

（鏡）かゞみ。神は其心明かなる鏡の如く一点の曇なきを以てうれにたとへて云へるなり

（上）かみ。君、主、官、長、の如きみな之を「かみ」といひて上なり上ごし貴ぶべきものなる故に上にはします名にて云へるなり

天之御中主神の天は廣く遠く彊りもなき虛空を云ふうの天の御中は眞中なり天の眞中のいと高き虧に鎭まりまして宇宙の万物を悉く主宰たまふ大御神にましまして其の御功德の廣く大なること稱へ申すべき詞もなし」

高皇產靈神の高は高天原の高と同じく御功德を稱へて申せるなり皇は御と書けるも同じく美稱なり產は「うむす」と云ふことの「う」を省けるにて生を云ふ生は男子、女子、苔のむす、と云ふも同じく物の成り出づるを云ひ靈は凡て物の靈異なるを云へる美稱なりされば產靈とは總て物を生成すことの靈異なる神靈を申すなり」

神皇產靈神の神皇は高皇と並びたる稱辭なり產靈の意義上に同じ」

此三柱の神は竝獨神成坐してこは此天之御中主神高皇產靈神神皇產靈神の三柱の神は皆うれ〳〵唯一と柱づゝ成りまして後の男女相耦ひて成り坐せる神たちとは異なるなり」

御身を隱したまひきとは此三柱の神たちは高天原に常しへに隱れ鎭り坐まし其の御形を見奉ることなき故にかく語り傳へたる物なり

むかし、てんちの、まだ、できて、だらぬとき、たかまのはらに
かみさまが、ましました、ろの、かみさまの、たなは、あめのみ
なかぬしのかみ、つぎに、たかみむすびのかみ、つぎに、かむみ
むすびのかみ、とまをし、この、みはしらの、かみさまは、みな
ひとはしらづゝ、できられた、かみさまで、いつも、たかまのは
らに、かくれ、しづまりまして、たすがたては、みることはで
きぬのである

此の三柱の神は如何なる理ありて何の産靈によりて成り坐せりと云こと其傳なければ知りがたけれど甚も奇しく靈しく妙なる理によりて成坐しけむされば心も詞も及ぶべきならねば固より傳へのなきゝ諸なりける此神たちは天地よりも先だちて成りましつるなり世間に有りことあることは此天地を始め萬の物も事業も悉く此二柱の産靈の大御神の産靈に資りて成り出づるものなり高皇産靈神は男神に坐しく産靈の外つ事を掌生し神皇産靈神は女神に生々て産靈の内つ事を掌給ふ故に活動は高皇産靈神の守護にして靜止は神皇産靈神の知食すところ覽ゆれ是より人の上を思ふに夫は外つ事を掌り婦は内つ事をいとしみて兒を育つるを始め察内の事ども專ら行ひて女を刀自(戸主)とさへ稱ふことは深きいはれあることなり(夫婦の道は伊邪那岐伊邪那美命よりぞ始まる)産靈の神の大御德は神第のみならず天地をさへ鎔造たまひまた生とし生ける物ども人は更にも云はず其神魂、性情、靈智も悉く産靈の神の賦物にして其神魂の作用について荒魂は高皇産靈神和魂は神皇産靈神の守護なることをも辨ふべし

靈魂の作用五つに分る

○荒魂○和魂○本魂○幸魂○奇魂

荒魂は勇氣にして殺伐なご和魂は慈愛にして救助なご幸魂は幸福

奇魂は不思議な才智などは作用をなす而して幸魂奇魂も總べて和魂こいひなせり

この、あめのみなかぬしのかみ、たかみむすびのかみ、かむみむすびのかみ、みはしらの、かみさまは、ごういふ、わけあり、また、なにの、むすびによりて、れでき、なされたかといふ、ことは、うのつたへ、がないから、わかりにくいけれど、まことにきめう、ふしぎな、りによりて、できられたので、あらう、されば、こゝろも、ことばも、たよばぬから、もとより、つたへの、ないのが、もつともである、この、みはらしの、かみさま、たち、は、てんちよりも、さきに、れでき、なされたのである、よのなかに、ありとあることは、この、てんちを、はじめて、よろづのものも、わざごとも、みな、この、たかみむすび、かむみむすび

ふたはしらの、れほかみさまの、むすびによりて、できるものである、たかみむすびのかみさまは、をこがみさまで、むすびのうこむきのことを、つかさどりなされ、かむみむすびの、かみさまは、をんながみさまで、むすびの、うちわのことを、つかさどり、なさる、うれゆゑ、すゝむことや、うごくこと、などは、たかみむすびのかみさまの、まもりで、しずまること、とまることなどは、かむみむすびのかみさまの、れまもりである、これらから、ひとの、うへを、れもふに、れつとは、うこのことを、つかさどり、をんなは、うちのことを、せいだし、こをうだてることを、はじめ、やさしいことを、れもに、れこなうから、をんなを戸主(こじ)とさへ、こなへるやうに、なりたのも、ふかい、いわれがあることである、むすびの、かみさまの、れほきな、れとくは、

かみがみさま、ばかりでなく、てんちを、さへ、たこしらへ、なされ、また、いけるものみな、にんげんは、さらにいふに、たよばず、うの、たましひ、こゝろ、ちゑ、など、こと〳〵く、むすびのかみの、たまものである、うのまた、たましひの、はたらきに、ついても、あらみたまは、たかみむすびのかみさま、にぎみたまは、かむみむすびの、かみさまの、たまもりである、こともわきまへられよ

天之御中主神は御名の大きなるに取りては其事蹟の傳へなき故に神德を伺ひ奉るべき便宜なけれども二柱の皇産靈の神より前に始めより坐ましし女男の御德を兼ね有ち爲すことなくして産靈の根原を司り給ひて坐ましけるなり女男の産靈の大神は其の神靈に資りて生れ出て坐して産靈の妙用を分け持ち宰給ひて天地も何も此二柱の大神の産成し給へ

る事と思はる

あめのみなかぬしのかみさまは、たなの、たほきなるに、こりてはうの、みあとの、つたへが、ないから、こしんごくを、うかゞひ、たてまつる、たより、なけれども、ふたはしらの、むすびのかみさまより、まへに、はじめから、だいでなされ、だんじよの、たとくを、かねて、たもちなされ、じつとして、むすびの、ねもとを、つかさどり、たまひて、ましますのである、だんじよの、むすびの、かみさまは、うの、あめのみなかぬしのかみさまの、みたまによりて、たてき、なされて、むすびの、はたらきをわけもち、つかさどり、たまひて、てんちも、なにも、かも、ここの、ふたはしらの、かみさまの、こしらへ、なされた、ことゝ、たもはれる

我が國天地の神を封じて天之御中主尊と號す天を擧げて以て地を包む中は卽ち天地の中主は卽ち主宰の謂ひなり鎭へに高天原に在りて凡う上下大小の神皆尊の化する所なり高皇產靈尊天に在りて万物を化生するの功を發し高皇產靈尊は靈降りて生物の魂となる（垂加）

わが、にほんのくには、てんちの、かみさまを、まつりて、あめのみなかぬしのみことと、まをす、てんを、あげ、ちを、つゝむとて、てんちをひつくるめて、こしはい、なさるのである、なかはこりもなほさず、てんちのなか、ぬしは、とりもなほさず、つかさごり、たまふを、いふなり、いついつまでも、たかまのはらにたられて、すべて、うへ、した、たほき、ちいさき、かみ〳〵さまは、みなこの、あめのみなかぬしのみことの、たつくりなされたのである、たかみむすびのみことは、てんにありて、よろづのものを、たつくりなさる、はたらきを、なされ、かむみむすびのみことは、みたま、くだりて、いきものの、たましひとなる

幽冥は顯世よりは目にも見ゑず耳にも聞ゑざれども神の坐ます世界を指して幽冥界と云ひ其の幽冥界の萬機を主宰し給ふ神を幽冥大神と稱し其の大神の萬機の政を指して顯冥政とは云ふなりけりさて此を幽政ともいふ其は顯明政に幽冥政、現政に幽政と古より對へ云ひ來つる語にて同じ意義なりさて其の幽冥の神等は顯世の人の目には見ゑ給はざれば天之御中主神より始めて產靈神等を古事記に隱身に坐すとは云へるなりかくて幽冥政とは其の幽冥に坐す神多在る中に其の大元を執り統べ給ふは彼の產靈二柱の大神に坐し此れの顯世に人の生れ出づる根本は更なり國土山海草木鳥獸魚鼈昆蟲などに到るまで大小の事物は皆悉くこの幽冥神等の事執給ひて顯世に生產せしめ人をしてまづ衣食住

に事欠くること無からしめ給ふめるを斯人を始め萬物をも生産せしめ給ふ本因は如何なる事ぞといふに萬物は全く人の爲に生産せしめ給へるものにして人は全仁慈を心掟こして上一人と坐す　皇美麻命に仕へ奉りて忠誠を竭し國土に就きては功業を建て顯世に在る間に其の心魂を練固め心身共に勇猛健固ならしめて歿後に至り産靈の幽政に加へ用ゐて天地の間の造化の妙用に使用し給はんの大御心なること古傳の上に昭々として万代無窮に易るべからざる道の大本なり仁慈は産靈の恩賴の御洪福を吾身に顯はし行ふ術なれば專ら幽政の方に就き忠誠は天照大御神の大御言を畏み重じて仕へ奉るの道なれば專ら顯明の方につけりさて其の幽政に就ける仁慈を行ふは卽ち顯世なる忠誠を竭すの基なり顯明にして忠誠を竭すは卽ち歿後幽政に關係るの本源と成りて行くなる幽き契を熟考へ悟るべし　（顯幽順考論）

恩賴は「みたまのふゆ」と讀み「みたま」は御賜又は御靈「ふゆ」は殖ゆる意義なり故に「みたまのふゆ」は恩にあづかること又めぐみをうくることに云へり然して靈は元造化の神よりの賦物なるに由りて「たまもの」を約めて「たま」と云ひしなり又人々の善心善行によりて造化の神は其日々々其時々德を授け幸福を靈魂に與へ賜ふより我が魂靈「ろひふゆる」といふより「みたまのふゆ」とは云ふなり

あのよは、このよからは、めにもみゑず、みみにも、きこえぬけれども、かみさまのござる、せかいを、さして、かくりよと、いひ、うのかくりよの、よろづの、せいじを、つかさどり、たまふかみさまを、かくりのたほかみと、こなへ、うの、たほかみの、よろづの、まつりごとを、さして、かくりごと、といひ、また、これを、かみごと、ともいふのである、うれは、あらはごとに、

かくりごと、うつしごとに、かみごゝ、むかしから、ならべて
いひ、きた、ことばで、れなじこゝろである、さて、うの、かく
りよの、かみさま、たちは、このよの、ひとの、めには、みにた
まはぬから、あめのみなかぬしのかみさまから、はじめて、むす
びのかみさまたちを、ふることぶみ、こ、いふ、ぼんには、かく
りみに、ましますといふてある、うして、かくりごと、とは、う
の、かくりよに、ましまし、かみさま、たくさん、ござるなかに
うの、たほもこを、とりしまりて、ござるのは、かの、むすび、
ふたはしらの、たほかみさまで、このよに、ひこが、うまれでる
ねもこは、いふにたよばず、くに、つち、うみ、やま、くさ、き
とり、けもの、うを、かめるい、はふむし、のやうなもの、まで
たほきなものも、ちいさいものも、みな、この、かくりよの、か

みくさまが、こりたこなひ、なされて、このよに、うまれださ
し、にんげんに、まづ、きもの、くひもの、すみか、なごに、か
げることのないやうに、してくださる、このやうに、にんげんを
はじめ、よろづの、ものを、こしらへくださる、もこは、ごうい
ふ、ことかといふこ、よろづのものは、まつたく、にんけんの、
ために、たつくり、なされたもので、にんげんは、れもに、めぐ
むこゝろを、さだめこして、かみ、ごいちにんごまします、でん
しさまに、つかへ、たてまつりて、ちうぎ、をつくし、このくに
につきて、てがらをなして、このよに、をるあいだに、こゝろや
たましひを、ねり、かため、こゝろも、からだも、ごちらも、つ
よく、たしやにして、しんだ、のちに、むすび(生産)の、あのよのごせ
いじむきに、もちゐて、てんちのあいだに、ものをつくりだす、

はたらきに、たつかひ、なさらうとの、たぼしめして、あること
は、むかしの、しよもつの、うへに、あきらかにして、いつ〳〵
までも、かはることのなき、みちの、たほもとである、めぐむこ
ゝろは、むすびのかみさまの、ごをんある、たほきな、しあはせ
を、わがみに、あらはして、たこなふ、わざで、あるから、たも
に、かみごとの、はうに、つき、ちうぎは、あまてらすたほみか
みさまの、たほせを、かしこみ、たもんじて、つかへ、たてまつ
る、みちであるから、たもに、あらはの、はうについてたる、さ
て、うの、かみごとに、ついてたる、めぐみを、たこなふは、と
りもなほさず、このよの、ちうぎを、つくすの、もとゐこなり、
あらはにして、ちうぎを、つくすは、とりもなほさず、しんだの
ち、あのよの、こせいじに、かゝはる、もことなる、ふかき、い

はれを、よく〳〵かんがへ、さとられよ
天地を始め萬物の濫觴も悉く幽よりして顯に及びつるものなれば其の
天地の間に含有せる人を教導するの道に於ても幽を本源として顯に及
ぼさゞれば豈道の基本の立めやもさてまた万物を世の中に生産せしめ
給ふにも産靈神等の深く厚き神議にあらざれば成り難きことは云はま
くも更なるを神は然ばかり種々御心を盡して人には慈愛洪福を賜ふめ
れば其賜はる所の衣食住に就ても其の深き御惠厚き賜物なる事を辱な
み歡ばずば有るべからずさてかばかり御心を盡し洪福を與へ第一世の
間を安泰に過さしめ給ふ人なれば其御心に叛き奉らず違ひ奉らず人毎
に仁慈を心の本体として專ら君上に仕奉りて忠誠を抽で大功績を建
て傍ら父母に孝養し妻子を愛憐し家門の榮を謀り祖先の名を辱しめじ
と勤むべく斯く勤成さば幽冥に到りては幽冥政の重任に擧げ用ゐ給は

事神典の上と代々の事實の上ごに昭々たれば疑ふべきにあらず

（顯幽順考論）

一八

てんちを、はじめ、よろづのものの、はじまりも、みな、かくりよ、から、この、うつしよに、たよんだもの、であるから、うのてんちの、あいだに、ふくまれてある、ひごを、をしへ、みちびく、みち、に、たいても、かくりを、もこゝして、この、うつゝに、たよぼさねば、なんこ、みちの、もこの、たちましようや、たちは、しません、さてまた、よろづのものを、よのなかに、つくりだし、たまふにも、むすびのかみさまたちの、ふかくあつきたぼしめしに、よらなければ、なりがたきことは、いふに、たよばぬことで、ある、さやうに、いろ〳〵こ、みこゝろを、つくして、ひごには、じひ、なさけ、たほきな、しやはせを、くださるのであるから、うの、くだされたこころの、きもの、くひもの、すみかに、ついても、うの、ふかき、みめぐみ、あつき、たまものなるこごを、かたじげなくたもひ、よろこばねば、ならぬ、さて、かくまで、みこゝろを、つくし、たほきな、しやはせを、くださり、だいいち、よのなかを、あんしんに、すこさしめ、くださる、われ〳〵にんげんで、あれば、うのみこゝろに、うむき、たてまつらず、たがひ、たてまつらず、ひとごとに、めぐむこゝろを、もとごして、たもに、きみに、つかへ、たてまつりて、ちうぎを、つくして、たほきな、てがらを、たて、かたはら、ちゝはゝに、かう〳〵をなし、つまこを、かあいがり、いへの、さかひを、はかり、せんうの、なを、わるくせぬやうに、つとむべくかやうに、つごめなさば、かくりに、ゆきては、あのよの、ごせ

一九

いじの、たもきやくにあげて、たつかひ、くださる、こと、かみのみふみや、だいだいの、ことがらの、うへに、あきらかである

から、うたがふべき、ことではない

さて神の御目にも留りつる人は彌々其の心魂を練り固めしめて勇壯堅固剛猛ならしむるにあらざれば顯幽共に弘大の功績は立て難きものなれば態と災難にも遇はしめ其を他に見過して其心操を鑑みたまふ事にて其災難に遇ひて心志亂れて心操立ち難きものは顯幽共に強て騰用し給ふまでには至らず又其の場に臨みても心操亂れす心魂健固なる時は縱しや死地に入るとも靈妙の神策を用ゐて救ひ給ひ遂に大功を立しめて幽府に騰用し給ふことは大國主命の御上は申も更なり武内宿禰命和氣清麿郷などの上を思ひ渉しても考へ悟るべし

されば今も心中清淨潔白にして仁慈誠忠を心ごしたる上にも不慮の災危に罹り或は難澁身に迫るか如き事の有ても少しも屈せず然る時には殊更に神鑑に關り神の鍛にかゝり居る事を深く愼み彌其心操を撓めず勇猛健固に堪忍ぶべき事にこうよし其の期に至りて神の救ひ給はで其の身歿するとも幽府に於ては騰用し給ふことは云も更なれば強て歎き悲むべき事にあらずかく神の鍛にかゝりて艱難に遇へるは其の難の解釋するに及びては轉じて洪福を得るの端とは成行く物なること古今に其事蹟いと多し（終り）

伊邪那岐命天に參昇り坐て後大國主神久しく此國土を治し看して伊邪那岐命の作り遺し給へる神功を竟へ給ひしが天照大御神の詔命以て皇美麻邇々藝命を天降して所治看さしめ給へりしかば、大國主神は幽事を治め給ふことゝなりて是より顯世と幽世と分りて所治看ことゝはなりぬ

さて、かみさまの、ためにも、ごまつた、ひごは、いよ〳〵、ろの、こゝろや、たましひを、ねりかためさして、いさましく、さかんに、かたく、ならしめねば、このよ、あのよ、ごもに、たほきな、てがらは、たてにくい、ものであるから、わざと、さいなんにも、あはし、ろれを、よろに、みすごして、ていて、ろしてろの、こゝろ、みさを、ためして、ごらんになることで、ろの、さいなんにあふて、こゝろや、たもふことがみだれる、ものは、このよ、あのよ、ごもに、たつて、あげ、もちゐ、たまふ、までには、ゆかず、また、ろのばに、でくはしても、こゝろも、みだれず、たましひが、じようぶなときは、たとへ、あぶなきこゝろへ、はまつても、ふしぎな、かみのたぼしめしを、もつて、すくひたまひ、こう〳〵、しまひには、たほきな、てがらを、たてさ

して、かくりのみかごに、あげもちゐ、たまふことは、たほくにぬしのみことの、たんうへは、まをすに、たよばず、たけしうちすくねのみこと、わけきよまろけうなごの、うへを、たもひ、わたしても、かんがへ、さこられよ、されば、いまも、こゝろが、しようじよう、けつばくで、めぐむこゝろあり、まことで、ちうぎを、こゝろこしたる、うへにも、たもひがけない、さいなんにかゝり、または、なんじう、みに、せまるやうな、ことが、あつても、すこしも、へいこうせず、よわらずに、こふりぬける、ろうするときは、こゝさらに、かみさまの、たみわけに、あづかりかみさまの、こゝろだめしにかゝりをることを、ふかく、つゝしみ、いよ〳〵、ろの、こゝろ、よわらず、いさましく、じようぶに、しんばうすべきことである、たとへ、ろのときに、なりて、

かみさまの、すくひ、くださいで、うの、みは、しぬる、とも
かくりのみかごでは、あげもちゐ、くださることは、いふに、た
よばぬ、ことであるから、むやみに、なげき、かなしむべき、こ
とではない、かやうに、かみさまの、きたへに、かゝりて、かん
なんに、あへるは、うのなんの、とけるに、たよびては、かわつ
て、たほきな、ふくの、くるもとと、なりゆく、ものなること、
むかしも、いまも、うの、あとかた、こりわけて、たほくある、
よしや、このよで、ふくや、こくが、みになくても、あのよで、
もらへるのである

天之御中主神の發動の妙即ち高皇産靈神生ず其の靜復の妙即ち神皇産
靈神生ず乃ち相交感して天地神人萬物を生ず皆天之御中主神の玄體妙
用なり蓋し一神二神を生じ二神萬神を生す萬神二神に歸し二神復一神
に歸す故に合せて造化神と言ふ則ち至誠の妙生々息まざるの謂ひなり

（本教眞訣）

あめのみなかぬしのかみさまの、きめうふしぎなる、うごく、は
たらきに、よつて、たかみむすびのかみさまが、たうまれ、なさ
れた、のである、また、あめのみなかぬしのかみさまが、しづま
りて、もとにかへり、たさまられる、きめうふしぎな、たはたら
きによつて、かむみむすびのかみさまが、たできなされたのであ
る、この、みたま、まじはり、かんじあひなされて、てんち、か
み、ひと、よろづのものが、できたので、あるが、これを、すべ
て、いふときは、みな、あめのみなかぬしのかみさまの、ふしぎ
な、たはたらきである、たゝよう、ひとはしらのかみさまが、ふ
たはしらの、かみさまを、うみなされ、ふたはしらのかみさまは

また、よろづのかみさまを、うまれたのである、ろれで、やほよろづのかみさまは、もとをいへば、たかみむすび、かむみむすびふたはしらのかみさまに、かへり、ふたはしらのかみさまを、づめると、また、あめのみなかぬしのかみさまの、ひとはしらにもどる、ろれで、あはせて、むすびのかみさまと、いふのでありもなほさず、まことの、めう、ふしぎ、から、よろづのものを、むし〳〵、つくりつくられて、やまぬ、いはれである

天之御中主大神は高天原に大座しまして八百萬神千萬物に御靈を賦り幸ひ給ふ造化眞宰の大神に座しませば瓊主てう御名を負ひ給へるが總體の人、又神の尊稱にも爲り或は國にまれ物にまれ己が有こ爲したる物をば主といふ事こなりたること更に論ひあるまじく思はる（天之御中主神考）

あめのみなかぬしのたほかみは、たかまのはらに、たいでなされて、やほよろづのかみさまや、せんまんの、ものに、みたまをさづけてくださり、ものをこしらへだす、たほもとを、つかさどりなさる、かみさまであるから、ぬしといふ、たなまへを、もちてござるが、すべてのひこ、またほ、かみさまの、たゝへなにもなり、また、くにでも、ものでも、じぶんのものとした、ものをば「ぬし」といふことになつたことは、さらに、かれこれの、ろんはないこゝろたもはれる

抑も産靈の大神何の爲めに此の如く種々各異なる運動ありて至微至精玄妙不可思議の大器物を造成したるこゝろこ沈潛反復して此を愼思するに唯是れ神聖を生ぜんこ欲するの外に他事あることなし夫れ神聖は産靈の大神の神通と雖も自親に此れを生むここ能はず必ず天地の精粹

を盡し鍛練の至誠を極むるに非ずば成就すること能はず夫れ神聖を鍛練せんことを欲するが故に篤く人類を愛育す人類を蕃衍せむことを欲するか故に萬物を化生す夫れ萬物を化育せむとするには必ず此世界の如く至微至精玄妙不可思議の神機を極めたる大器物を造成するに非ざるよりはいづくんぞ能くすべけむや又産靈の大神の神聖を生ぜむことを欲して劬勞を極めて此天地を鎔造し既に神聖を得るに及びては何事に此れを用ふると云ふに唯だ是れ産靈の大業を讓るのみ故に豐日靈神の聖德成就するに及びて乃ち産靈の大業を悉く皇大神に讓り給へり此れより後は天照大神天上万機の大政を統べ治め八百万神に帝たり此れを以て知るべし大地は神聖鍛煉の戒場なることを天上に八百万の神あり然れども地上に於て鍛煉せざれば聖德は成就せざるなり産靈の大神の盛德と雖も自親に生ずる事能はざる亦以て察すべし故に皇祖天神此世界を造るや天を以て神の居とし地を以て人の居とし幽界あり以て靈魂の居こす是故に生を人間に受たる者は上天の神意を知らんずばあるべからず既に上に論じたる如く人は皇祖天神の愛矜する所にして天照大神の照育する所なり故に其の性命を賦與すること一善の備はらざる事なし現世に在る間に善を行ひ人を救ひ上天の神意を行ひ奉る者は歿後必ず神と爲りて天に昇ること疑ひなし況んや聖德を成就する者に於てをや所謂幽界は現在此世の中の功罪を審判して靈魂の幽明を黜陟する所以なり夫れ天地運動し寒暑往來して萬物を發育するものは皆是れ人類をして性命を保續し道德を修成せしむるの修行料なり故に天命の性理に率はす人世の法度を守らず私意を縱にして徒らに道義の修行料を費す者は必ず上天の冥罰を蒙る畏れざるべけむや且つ又國家に主たる者は天地の神理を精究し水陸を經營して物産を開發し部内を豐饒に

して人民を蕃息し蒼生をして皇天の命を喪はざらしむる者は卽ち其の天職なり　（天柱記）

皇祖天神此世界を造るや天を以て神の居とし地を以て人の居とし幽界ありて靈魂の居とすとあり神の居とは卽ち神界高天原にして貴き神々の坐ます處なり幽界あり以て靈魂の居とすごは幽冥界は人の死後靈魂の到り留まる處所謂靈神界なり亡幽遊魂は皆此幽冥界に居るものとす此幽冥界に府あり幽本府（又は幽府）と稱へて幽冥神の坐まして人の此世にありて爲せしことの善惡を審判して夫々賞罰を行はゝ役所なり此幽本府に於て善惡を審判して人の至誠にして功德を積み善の善なる者は高天原に昇らしして神となし或は幽界に留まらしめて神業を執行はしめ給ふもあり又心行惡しく罪の深き者は貶して暗く穢き根國底國に追ひやり給ふもあり而して靈魂は不滅にして生れかはり死かはるものなり是を以て顯世に於ての善惡の行爲は卽ち幽冥の幸不幸の果となり幽冥の善惡は又々顯世の幸不幸の本となること更に疑ひなきことなり故に人々能く顯幽一理死生一貫の眞理を悟らんことを要す

猶靈界の上につきて孔子は左の如く說けり

精氣物と爲り遊魂變を爲すこ」

ミルトン　幾千万の靈物は常に地上を歩むこ云ひ

カーライルは地上には常に二十億万の靈ありて遊行すこ云へり是を以ても宇宙には吾人の見るべからざる靈魂の充滿せるこを想察し得べし

うもく、むすびのかみさまは、なにのため、このやうに、いろ〳〵さま〳〵、ちがつた、うんごうがありて、ごくかすかに、

ごくくはしく、ふかく、きめうふしぎな、たほきな、うつわもの
の、このよのなかを、こしらへられた、こゝろを、こゝろを、た
ちつけて、くりかへして、これを、かんがへて、みるに、たゞ、
これは、かみを、こしらへやうと、たもはるゝ、ほかはなにも、
たのゞみは、ないのである、かみは、むすびのかみさまの、じん
つうりきでも、ごじしんに、これを、うむことは、できぬ、かな
らず、てんちの、くはしく、まぜりけのなき、せいきを、つくし
ねりきたへ、まことを、きはむるでなくば、できぬ、かみを、ね
りきたへて、こしらへる、ことを、のゞまるゝがゆゑに、あつく
にんげんを、かあいがり、うだてられる、また、にんげんを、ふ
やすことを、たもはれるから、よろづのものを、こしらへられる
よろづのものを、こしらへるには、かならず、この、せかいの、

やうな、こまゝ〳〵こゝゆきこゝいた、ごくくはしく、ふかく、き
めう、ふしぎな、はたらきの、ある、たほきな、うつはを、こし
らゑるでなければ、どうしてか、できましようやなか〳〵、でき
は、しません、うれでこの、たほきな、うつはたる、せかいを、
こしらゑ、られたのである、また、むすびのかみさまの、かみを
うむことを、たもはれ、くろうを、して、この、てんちを、つく
りなし、もはや、かみが、できられたうへは、なにごこに、これ
をたつかい、なさるかといふに、たゞ、これ、むすびの（生産）、たほき
な、しごとを、ゆづりて、なさしめ、たまふのである、うれゆゑ
に、こよひるめのかみとまします、あまてらすたほみかみさまの
すぐれし、たごく、できあがるに、たよびては、むすびの（生産）、しご
ごを、みな、すめたほかみさまに、たゆづりになり、これより、

のちは、あまてらすたほみかみさまが、てんじようのよろづの、ごせいじを、つかさごり、たきめて、やほよろづのかみさまの、なかでの、きみと、たなりなされたのである、これをもつても、このごちは、かみを、ねりきたへる、しゆぎようばであることがわかります、てんじように、やほよろづのかみさまござる、けれども、このごちに、たいて、ねりきたへねば、すぐれしごくは、できあがらぬのである、むすびのかみさまの、たほきなとくでもごじしんに、たこしらへ、なさるこゝは、できぬことがわかる、ゆゑに、あまつかみさまが、このせかいを、たつくりなさるや、てんを、もつて、かみさまの、たすまゐこなされ、とちを、もつて、にんげんの、すまゐとなされ、かくりよをもつて、たましひのすまゐと、なされたのである、うれで、にんげんこ、うまれて

きたものは、あまつかみさまの、たこゝろを、しらねばならぬ、かみに、いふてあるやうに、にんげんは、みたやあまつかみさまの、かあいがり、くださる、ところで、また、あまてらすたほみかみさまが、てらしうだてゝ、くださる、ところである、うれでうの、もちまへを、あたへくださるのに、なにか、ひとつのよきことの、うなはらぬことはない、うなはりてある、このよに、ある、あいだに、よきことをし、ひとを、すくひ、てんの、かみさまの、たこゝろを、たこなふものは、しんだのち、かならず、かみさまこなりて、てんに、のぼることば、うたがひ、ないのである、ましてや、すぐれた、とくを、つみかさねたものは、なほもつてのことである、いわゆる、かくりよは、げんざい、このよのなかの、てがらこ、つみこを、しらべて、たましひの、くらきと

あかきこを、みわけて、くらきは、をごし、あかきはのぼさるゝわけである、ろれ、てんち、うんどうし、あつさ、さむさ、ゆききをなして、よろづのものを、ろだてあげるものはみな、これ、にんげんの、いのちを、つなぎ、みちを、しゆぎようさすためのしゆぎようりようである、ろれであるから、てんのいひつけに、じたがはず、このよの、おきてを、まもらず、わたくしごゝろをだし、わがまゝ、きまゝして、わけなしに、みちの、しゆぎようりようを、つかひはたすものは、かならず、てんの、ばちを、うけるから、をろれねばならぬ、かつまた、くにのあるじたるものは、てんちの、かみさまのりを、きはみ、うみや、りくちを、いとなみたさめて、ぶつさんを、ひらきふやし、うけもちないを、ゆたかにして、じんみんを、ふやし、じんみんらに、てんの、いひつけを、うしなはしめぬやうに、するものはこりもなほさず、ろの、あるじたるものゝ、てんより、いひつけられたるゝしよくぶんである

天神至誠息まざるの心能く生々化々萬物をして相生養せしむ苟も人其の間に無くば則ち以て玄功を全くする能はず譬へば籽種の如き便ち天神の生ずる所而して播植糞培耕耘簸舂釜甑炊爨して以て人物を生養するは則ち諸を人に資らざるを得ず紡織陶冶工匠以て民を治め軍を行り天を測り海を航るに至るまて一切凡百皆然らざるは莫し故に天神至誠息まざるの心を以て人に賦し至誠息まざるの功を賛けしむ是に由つて之を觀れば天神は猶人の如く人は猶妙功なる器械の如し以て能く天神造らんと欲する所の者を成す是れ神人一體以て聖と爲るべく以て神と

爲るべき所以なり倭姫命曰く天神の眞魂父母の氣に藉て以て人身に舍る之を人神と謂ふ神常に吾か中府に在す是なり（本教眞訣）

あまつかみさまは、まごころをもちて、かたこきも、やすむことさなき、こゝろで、よく、よろづのものを、うみだし、うだてなして、うれをして、あいたがひに、やしなはしめたまふ、もゝにんげんが、うのあいだに、おなければ、たほきなゝがらを、まつたうに、するこゝが、できぬのである、たとへてみるこゝもみだねの、ごときは、あまつかみさまの、たつくりなされたもの、しかれども、これを、うゑつけ、こやし、やしなひ、たがやし、くさきり、みにかけ、つき、かま、こしきで、たいて、もつて、ひとを、やしなうのは、ひとの、ちからの、たすけを、びなければ、ならぬ、いとをつむぐ、をる、すゐものし、かち、だいく、さかんなごより、じんみんを、おさめ、いくさをやり、てんをはかり、うみを、わたるなゝ、いつさい、ばんじ、みなこの、もみだねの、たとへの、どふりでないことはない、うれで、あまつかみさまは、まこゝをもつて、すこしも、やまざる、みこゝろにて、ひこにさづけ、まことで、やまぬこゝろの、てがらを、たすけなさしめたまふ、これにによつて、これをかんがへてみれば、あまつかみさまは、てうど、ひこのごとく、ひとは、てうど、よきさいくの、ごうぐのやうなもので、あまつかみさまが、たつくりなさらうごする、こゝろのものを、なしこげらるゝ、たいせつなる、ごうぐである、これであるから、かみも、ひとも、ひとつですぐれた、ひこゝもなられ、かみさまこも、なられるわけである、やまこひめのみこゝとの、まをされましたのには、あまつかみさま

の、みたま、ちゝはゝの、きに、いりて、みのうちにやどるゝこれを、ひとがみといふ、ろのかみ、つねに、わがみのうちに、やどりじづまりますこと、いはれたが、これである

夫れ死生順逆富貴貧賤の境遇皆天神の命古に言ふ神漏岐神漏美の命是なり命に隨つて而して生き命に隨つて而して死し命に隨つて而して順命に隨つて而して逆命に隨つて而して富貴命に隨つて而して貧賤皆天神の權吾得て而して與かる所に非ざるなり吾は我か本分を盡して以て天神に復命するのみ　（本教眞訣）

ひとの、いきしに、また、のろみごとのかなふも、かなはざるもぶげんしやで、みぶんたかきも、びんぼうで、いやしきくらしをするも、みな、あまつかみさまの、いひつけである、むかしから

いふ、かむろぎ、かむろみのみことの、をゝせごふりである、（かむろぎは、たかみむすびのかみ、かむろみは、かむみむすびのかみのこと）うれで、ひとは、あまつかみさまの、いひつけによつて、いきながらへ、いひつけに、よつて、しに、いひつけによつて、じゆんにゆき、いひつけによつて、さかさまごとでき、いひつけによつて、ぶげんしやにも、たかくもなり、いひつけによつて、びんぼうにも、いやしくもなる、みな、あまつかみさまの、たきめによつて、さだまるもので、われらの、じゆうには、ならぬことである、こゝをよく、さとりて、われは、わが、なすべきうまれつき、もちきた、やくむき、つとめをつくして、うして、このよを、をはりて、あまつかみさまへ、ごへんじを、まをしあげる、までのことである、ゆゑに、わがのろみごふりに、ならぬ

とか、みぶんがひくいとかを、なげくべきことではない

總論

人事の頻繁事物の變遷日に增し月に生じ滔々底止する所を知らず盖し宇宙は活機にして事物は活動せり時に治亂あり隆替あり一事起れば一業廢れ新なるもの奇なるもの出で〻舊なるもの凡なるもの捨てられ昨の是は今の非にして今の非は又後の是たるや知る可からざるに似たり然り而て錯雜頻繁變遷推移は彼が如く更に底止する所なく把束するこなく唯忽焉として出で俄然として沒し紛々擾々無意義に終るが如しと雖も更に千古一定萬古不易の大綱ありて常に能く宇宙の森羅萬象を把束制御して違ふことなき必然の大法ありて終始一貫整然として秩あり嚴然として序あることを識らざるべからず

天の清明にして象を垂る〻地の曠濶にして物を載する夫れ如此天に日月あり地に山川あり視線の達する所思慮の及ぶ所列星宿辰禽獸蟲介の族擧て數ふべからず然り而て日月乾坤を照して未だ曾て變ずることなく千古の日月は猶今日の日月の如し山川草木の地を得て以て或は高く或は長く或は茂り或は枯る千古の山川草木各其の所を得其の生を得たる猶今日と異なることなし嗚呼天の覆へる地の載する四時の循環日月の明山川草木の狀皆之れ必然の大法に支配せられつ〻あるに非すや月に盈虧あり候に四時あり古今違はず世に盛衰あり人に浮沈あり之れ亦違はず春を以て生じ秋を以て實り雨露に育ち霜雪に凋むの草木古來其の序を同ふす「天地も月雪花も皆神の奇しき恩賴ならずやは」仁に生じ德に活き不義に滅し邪惡に仆るゝの人類古今誤らず生あれば死あり死あれば又生ず無は有を生じ有は復た無に歸す生來死去一醒一夢原

因結果永く相連續して盡くることなく幽より現に生じ現を終へて又幽に歸る現幽一致死生一貫靈魂永久に絶滅することなし誰れか此偉大なる權力と廣大無邊なる功德こを兼有して此攝理こ調和とを常住不變に經營執行する者ゥ吾人は此大功德を有して無始無終に宇宙の森羅萬象を主宰し給ふ大元尊神たる天之御中主神の坐まして能く嚴然たる秩序整然たる大法を保ちて各々其の所を得せしめつゝあるこを知るこ同時に其の絶對無限の大功德大靈妙の恩賴を深く感謝し厚く崇敬せざる可からざるなり

抑も孔子の所謂天何をか言はん四時行はれ百物生ず天何をか言はんやと云ひ罪を天に獲れば禱る所なきなりと云ひしも詮ずる所此天之御中主神の大功德を嘆稱し一面此大神の理法に違背せば禱るに由なきを云ひしに非すや

基督が神は慈愛の測るべからざる泉の如しとし此心はやがて神我こ偕に在りとの熱誠なる信仰に達し神に父にして我は神の子神は我こ一なりとの確信を以て常に天國の福音を說けり天父は卽ち天之御中主大神天國は是れ神界卽ち高天原を稱せしに外ならざるべし

釋尊が宇宙と人生とを達觀して其の眞理を究め三世因果を說き轉迷開悟離苦得樂遂に理想の樂境に悟入せしもソークラテースが死に臨みて神を信賴するの厚き現世も將來も善人に惡の來ることなく神は終に善人を棄てじ余は今や死の生に勝れるを知る諸神之を止めざるなりこ云ひ又人は神意に任せ靜平に死すべきものなりとて從容自若たりしか如きも皆之れ宇宙の大主宰者あるこを自覺したる心靈の光明能く大主宰者の大意識に貫通し神ありて卽ち我あり我は卽ち神の子なりこ神人不二の大悟道大自覺を得たる聖者にして神と云ひ佛と稱し儒と呼ぶ耶

と唱ふるも其の根底を究極すれば皆絶對無限の造化の大神に歸せざることなし宜なる哉大道二義なく達者途を同ふすることや

然れども唯物的進化論にのみ重きを措く者は共に神靈の萬能を語るべからず世に無神論者なるものあり蓋し物質あるを知て神靈あるを知らざるの徒ならんか彼れ常に敬神家を罵りて曰く敬神は大古崇拜の遺風のみ曰く未開人の恐怖のみ曰く迷信曰く何と是を之れ少しく學びて大に忘れ長じて却て短なるものと云ふべきか何ぞ思はざるの甚しきや

余は唯恐る彼の徒が神を無視するの精神と神の存在を否定するの論說とは動もすれば人を誤らしめ神を無視するの心を以て君父を無視し祖先を忘却して道義を亂り其の極遂に金甌無缺の國体を破毀し歷々たる史蹟をも抹殺せんと試むる者を出し或は悖德汚行夫の尤も惡むべく恐るべき賣國奴をも出すに至らざるかを

然れども世には往々神を標榜して私利を貪り人を誘惑して詐欺を謀る者又は浮祠に阿り邪說に迷信して身を破り家を傾くる者あり其の害前者に讓らず共に恐れて且つ大に警むべきものならずや

其の他敎を聽かずして訾笑し道を究めずして厭忘する者あり此等の輩は恰も瞽者の彩色を是非し聾者の聲律を批難するの類にあらずんば所謂喰はず嫌ひの徒のみ何ぞ論ずるに足らんや

借問す嗚呼我が親愛なる同胞諸氏よ諸氏は鄕等の住慣れたる御國は昔より神國と稱へ來りし世界無比の天授帝國たることを忘るゝ事はなきや我か奉戴せる　皇上は萬世一系の　皇統を繼承し賜へる最と神聖なる　現津御神に坐ますことを常に感銘しつゝありや宇宙は神の支配にして永久易はることなきことを確信せしや否や

前に列記せる如く先聖後哲が懇々神の存在を說き諄々神の功德を頌し

以て神と宇宙、宇宙と萬物及び神と人人と天理天理と人道と其れ等相關係せる以所並に人々日常心術の正邪と行爲の善惡とは卽ち吾人の吉凶禍福の基となり現世の幸不幸は卽ち幽界の幸不幸に關し幽界の幸不幸は又現世再生の德不德に關し相循環して茲に宿緣を生じ來る等不磨の眞理を詳說せる古今東西符節を合するが如し讀者反覆精讀し沈思熟考せは所謂默識神通の妙境に達し其間言ふべからざる感應靈覺を得て身心の怡愉安泰果して幾何ぞや

嗚呼大道坦々たり人々安んじて以て蹈め大救昭々たり同胞喜んで奉せよ何を危ふみて疑何し懼を疑ひて躊躇することを之れ爲さんや請ふ奮ひて起ち勵みて進め道を顯はし德行を神にし以て我が神國を實現するは獨り敎化に任ずる少數神道家及ひ宗敎家の責任のみならずや抑も亦我が親愛なる同胞諸氏の本分ならずや聊か所感を述べて編末に添ふと云爾

明治四十三年十一月廿七日印刷
仝　四十三年十一月三十日再版發行

編輯兼發行者　奈良縣生駒郡安堵村大字東安堵千四百六十四番地　石田正五

印刷者　京都市上京區御幸町二條北入達磨町六一一番地　白木三郎

印刷所　京都市上京區御幸町二條北入達磨町六一一番地　白木平安印刷舗

264
536

93

014325-000-9

特30-993

造化三神考

石田　守義／編

M43

ABB-0670

264
536

特3
9